

2013年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、カムチャツカ半島周辺、アラスカの南、北米北東部、ヨーロッパ西部はリッジ（正偏差）となり、中央シベリア、本州の東海上、米国東部ではトラフ（負偏差）となった。太平洋高気圧の張り出しが明瞭だった中国南部から西日本にかけては顕著な高温偏差となった。ユーラシア大陸では、亜熱帯ジェット気流が平年より強かった。また、本州の東では偏西風が南に蛇行した。

熱帯の対流活動は、アラビア海から南シナ海にかけてとインドネシア付近で平年より活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋からインドネシア付近を東進し、その後、不明瞭となった。対流圏下層の赤道域では、インドネシア付近で西風偏差、太平洋西部・中部では東風偏差だった。対流圏上層ではチベット高気圧が平年より強かった。南方振動指数は+0.9だった。

世界の天候

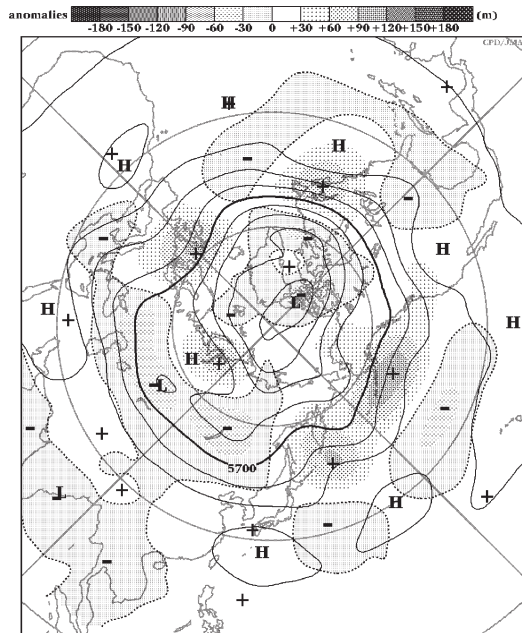
2013年7月の世界の月平均気温偏差は+0.22°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。7月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東北地方～中国中部にかけて異常多雨となった。
- 九州地方～中国南部では異常高温となった。
- 英国及びその周辺では異常高温となった。

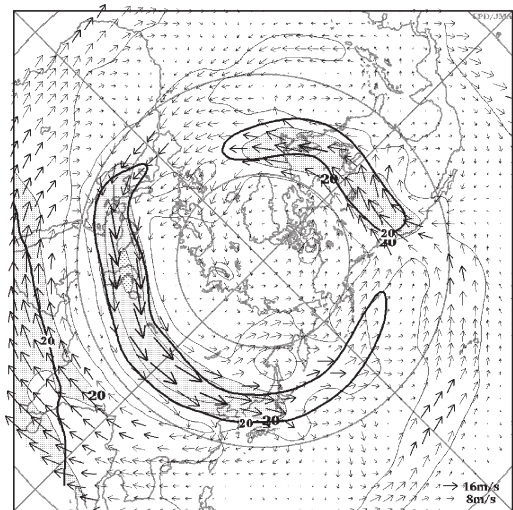
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

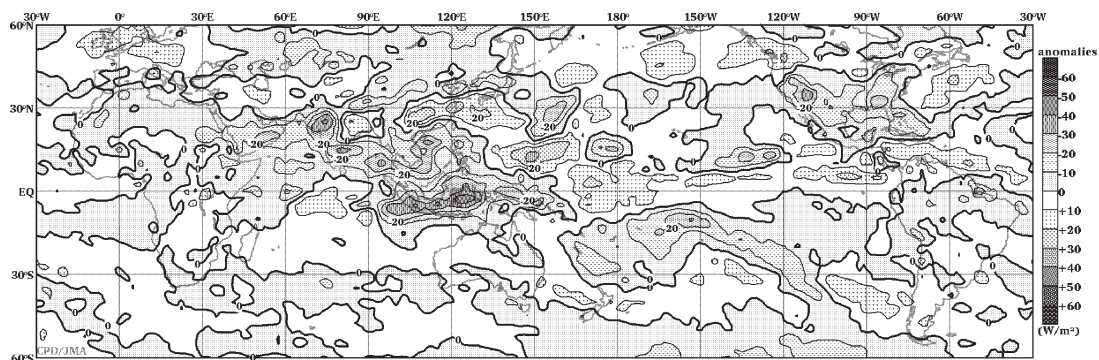
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



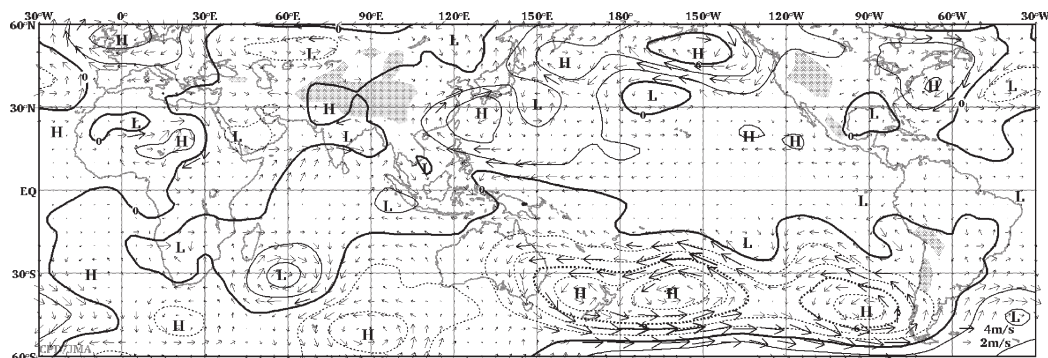
2013年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



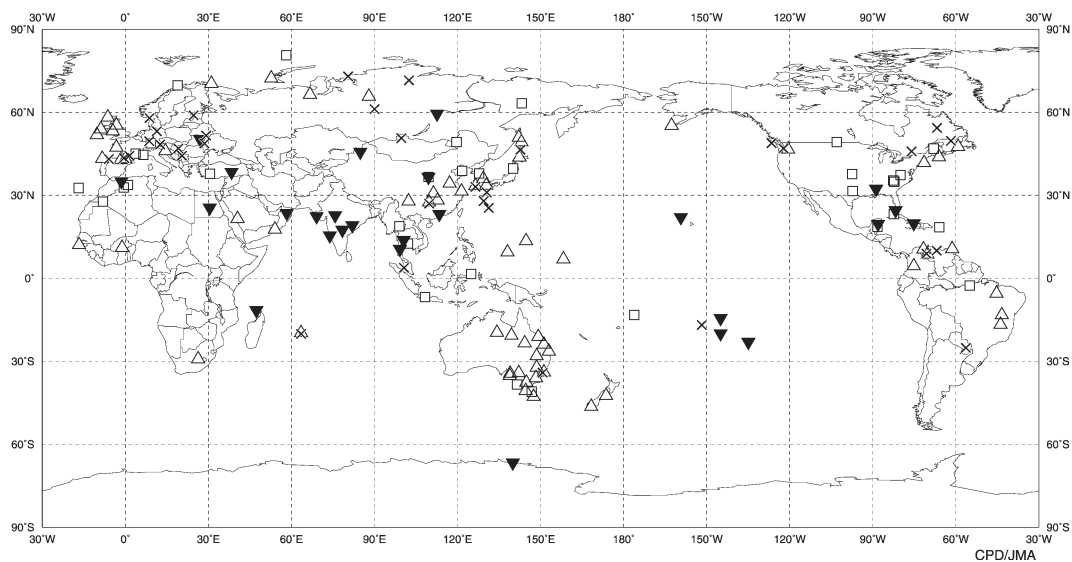
2013年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は20 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年7月の月平均外向き長波放射量年偏差
等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年7月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は 2×10^6 m²/s。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。